

1 小单元名 明治の国づくりを進めた人々

2 小单元について

本小单元は、学習指導要領第6学年内容（1）キ「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」、ク「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。」を受けて設定されたものである。

児童は前小单元で、260年続いた江戸幕府の基礎が固まったこと、争いのない世の中で、文化が栄えたことや、学問が盛んになり幕府の政治について批判する人も現れるようになったことを学習している。本小单元は、江戸時代の幕末から明治時代にかけて、数十年というわずかな間に大きな社会変化が起きた時代である。黒船来航と条約締結により国内が混乱し、より強い国を求める若い武士たちが江戸幕府を倒し、明治維新として新しい国づくりを進めた。廃藩置県、殖産興業、富国強兵、地租改正などの改革によって日本の近代化が進められ、文明開化として人々の生活や意識も変わり始めた。政府の改革に不満を持つ人々の行動は、武力による反乱から言論による自由民権運動に移行し、国会開設、大日本帝国憲法の制定をもたらした。そこで、この急激な世の中の変化において、様々な人物の思いや願いがあり、対立と協力が繰り返され、その中心には「欧米諸国に学び、近代化を図ることで国力を充実させよう」という思いや願いがあったことを捉えさせる必要があると考える。また、学習指導要領に例示された42人の人物のうち10人が登場し、多くの人物の働き、そこにある思いや願いに触れることができる单元でもある。

本学級の児童は、歴史学習を「誰がいつ何をしたのか」を覚えればよいと考え、「覚える」学習と認識している傾向にある。人々（人物）の思いや願いがきっかけで、「誰がいつ何をした」という結果につながっているということをつまみつけて考える楽しさよりも、「覚えなければいけない」という苦手意識の方が先行している。そのため、知識が豊かな児童を中心に学習が進んでいく。しかしながら、資料を読み取るときに現れる疑問や驚き、発見、さらに友達と考えを共有した時の思いや思考を深めるためのツールとしてふきだしに書き、表現することは楽しみながら取り組んでいる。

本小单元の学習は、児童の実態からすると「10人もの人物がいつ何をしたのか覚えなくてはならない」と学習意欲が低下することが考えられる。そこで、人物の名前や用語をただ覚えるのではなく、追究したくなる学習にしていきたい。児童が自ら学習問題を見付け、追究しようとする意欲を高めるために、江戸時代幕末の様子と文明開化の頃の様子、自由民権派と政府、私擬憲法と大日本帝国憲法など対になる資料を提示するなどして、人物が「何をした」という業績だけに注目するのではなく、国づくりを進めた人々が「なぜ」その政策を進めなければならなかったのか、その歴史的背景とも照らし合わせて人物の理解を進めていくようにする。また、单元を通して、「どのような思いや願いで～したのだろう。」と問い続けたり、児童が資料と出会った時にそこに込められた思いや願いに迫るふきだしを取り上げたりしながら学習を進めていく。児童が、思いや願いの視点を持って学習を進められるように、薩英戦争や下関戦争から感じた諸外国との差に対する人々の危機感、近代化を図ろうとする明治政府が政策に込めた思い、政府の改革が進む一方で不満を持つ人々がいたという思いの流れを大切に扱っていきたい。そうすることで、そこにはどのような考えがあり、なぜそのことをするのに至ったのか人物の思いや願いを結びつけて考えることで、歴史的な事象が人物の思いや願いをもとに行われたものとして捉えられるようにし、時代を動かすのはその時代に生きている人々の思いや願いであることを社会科の学習の視点として大切に児童を育てたい。

3 知識の構造図

中心概念

明治維新を進めた人々は、諸改革を行って国の仕組みを整え、欧米の文化を取り入れることで、我が国の近代化を進め、国際社会で欧米諸国に認められるように尽力に努めた。⑧

まとめる

具体的知識

江戸時代末と明治時代の初めでは、まち並みや学校の様子が大きく変わり、社会全体に大きな変化があった。①

- ・ 文明開化
- ・ 明治維新

明治時代になって西洋の技術や制度が導入され、欧米諸国に追いつこうという考えは、文明開化として、人々の生活や文化にも強く影響した。②

- ・ 大日本帝国憲法
- ・ 国会開設

黒船の来航と条約締結、外国との貿易や戦いによって外国の力の大きさを知った武士たちが危機感を持ち、より強い国をつくるために、江戸幕府を倒し明治維新を進めた。③

- ・ 黒船来航
- ・ 日米和親条約
- ・ 日米修好通商条約
- ・ 薩英戦争
- ・ 下関戦争
- ・ 開国

新しい政府の中心となった大久保利通や木戸孝允らは、欧米に負けない国をつくるために、廃藩置県、殖産興業、富国強兵、地租改正などの改革を行って、経済力と軍事力の強化に力を入れた。④

- ・ 五箇条の御誓文
- ・ 廃藩置県
- ・ 殖産興業
- ・ 富国強兵
- ・ 地租改正
- ・ 徴兵令
- ・ 学制

明治の世の中になり特権を奪われた武士たちは、武力による反乱を起こしたが敗れ、言論で主張するようになった。そして、この動きは自由民権運動となって各地に広まり、千葉県でも国会開設の動きがあった。⑤・⑥

- ・ 西南戦争
- ・ 自由民権運動
- ・ 政党
- ・ 桜井静

政府は、自由民権運動の流れがあったが、強い国づくりのために天皇の権力が強い大日本帝国憲法をつくった。⑦

- ・ 大日本国会法草案

つかむ

調べる

4 単元の目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるとともに、それらにかかわる人物の願いや働きの意味を考えようとする。
- 江戸と明治の日本橋や学校の様子の変化などから学習問題を見だし、資料を活用して調べたことをまとめるとともに、明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや、近代化を進めるために様々な諸改革を行った代表的な人物の働きの意味について思考・判断したことを適切に表現する。

5 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	黒船の来航から明治維新、文明開化などの時代の変化とともに、廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行った人物の働きについて関心を持ち、それらの人物の思いや願いについて考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するために様々な諸改革を行った人物の思いや願い、働きについて学習問題や予想、学習計画を考えるとともに、調べたことを比較したり、関連させたり総合したりして、近代化を進めた人々の思いや願い、働きについて思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能	明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するために様々な諸改革を行った人物の働きについて必要な情報を集め、読み取ったことをまとめている。
社会的事象についての 知識・理解	黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布など諸改革を行ったことを通して、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。

6 単元の指導計画（8時間扱い）

過程	時間	主な学習と内容
つ か む	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明治時代になって人々の暮らしや社会がどのように変わったかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代の日本橋の様子と明治時代の日本橋の様子を比べたり、「本朝舶来戯道 具調べ」から分かることや考えたりしたことを話し合い、文明開化について理解 を深める。 ・ 明治維新によって、社会が大きく変わったことをつかむ。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習問題をつくり、予想をもとに学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新の終着点である大日本帝国憲法発布、国会開設に至るまで、どのよ うな人々が活躍したり、政治や生活がどのように変化したりしたのか予想する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>国会開設までに、どのような人々が、どのような思いや願いで国 の仕組みや社会を変えていったのだろうか。</p> </div>

調 べ る	3	<p>○ どのようにして江戸幕府が倒れたかについて調べ、新しい世の中に代わる過程を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペリーの錦絵や黒船来航の絵から当時の人々の様子を想像する。 ・ 不平等条約を結んだ江戸幕府への人々の思いを考える。 ・ 薩英戦争の錦絵から兵力の違いや下関戦争の砲台占領写真から諸外国との力の差に気付く。 ・ 江戸幕府よりも強い政府が必要だと危機感を持った人々が立ち上がり、明治維新を進めるようになったことを理解し、次時へつなげる。
	4	<p>○ 欧米諸国から学んだことを生かして、どのような国づくりを目指したのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五箇条の御誓文や富国強兵というスローガンからどのような国づくりを目指したのか、明治政府のリーダー大久保利通になったつもりで政策を考え、班や全体で共有する。 ・ 政策から諸外国に認めてもらえるように国力を上げることが明治政府の方針ということをつかえる。 ・ 徴兵令では、兵役についての者が対象者の18%に過ぎなかったことや地租改正では一揆が起きたことから、人々の政府に対する不満もあったことを知り、次時につなげる。
	5	<p>○ 改革に不満を持つ人々の行動について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西南戦争から自由民権運動へと改革に不満を持つ人々の行動は武力から言論へと移って行ったことを理解する。 ・ 政府に不満を持つ人々の行動が武力から言論へと変化していったことを、国会の開設を求める板垣退助の願いや行動と関連付けて考える。
	6	<p>○ 改革に不満を持つ人々の行動について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉が全国でも自由民権運動が盛んだったことや、その活動を推進した桜井静について知る。 ・ 桜井静が全国の県会議員に「国会開設懇請協議案」を送付したことで、自由民権運動にさらに拍車がかかったことを知る。 ・ 自由民権運動の結果として、憲法の発布、国会開設が約束されたことを受け、自分ならどのような憲法をつくるのか考え、次時につなげる。
	7 本時	<p>○ 桜井静の「大日本国会法草案」と伊藤博文の大日本帝国憲法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大日本国会法草案と大日本帝国憲法を比較し、伊藤博文がどのような思いや願いを持って憲法をつくったのか考える。 ・ 伊藤博文は、欧米諸国に認めてもらえるように天皇を中心とした憲法をつくったことに気付く。
	8	<p>○ 人物のしたこと、思いや願いをまとめて、幕末から明治維新の時代を振り返り、共通点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「〇〇が～という思いで□□した時代」と一人一人がまとめ、全体で共有する。 ・ それぞれの人物を比較し、共通点を見出すことでまとめをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の現状に危機感を持った人々が、国際社会で欧米諸国に認められるようにと国の仕組みや社会を変えていった。</p> </div>
	ま と め る	

7 市教研社会科研究主題のための方策

変貌する未来を切り拓く社会科学習 ～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

<本年度主題解明のための方策>

- 研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり
- 研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

本小単元では、次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

○ 単元を通して人々の情意面にせまる

これまでの学習では、児童は「聖武天皇」＝「大仏をつくる」といった表面的な事実や業績の理解にとどまっている。そのため本単元では、事実や業績だけに着目させるのではなく、人々を突き動かしているのは、思いや願いであるという情意的な部分まで掘り下げて捉えさせていきたい。

江戸末期から明治初期の大きな変化の中、これからの日本はどうなるのか、政府・民衆どちらの立場にも共通する情意面が危機感である。黒船来航を機に外国との国力の差に危機感を覚える政府、急進的に政府主導で政治が進められ民意が置き去りにされていくことに対して危機感を覚える民衆。激動の社会の中で揺れ動く情意面に向かうために、事実や業績に至った過程を中心人物になりきり、ふきだしに思いや願いを書く自己内対話をさせていきたい。このような手立てを講じることで、歴史的背景をつかませながら、中心人物の思いや願いに迫ることができ、深い学びへと導くことができると考える。また、中心人物になりきって書いたふきだしが歴史的背景を捉えることで、思いや願いに迫り、業績と結び付けて考えられているかを評価していきたい。

本時では、私擬憲法である桜井静の「大日本国会法草案」と大日本帝国憲法を比較することで、政府が天皇の権力が強い憲法をつくったことを捉えさせる。民意を取り上げて国会開設へ向けた自由民権運動の流れがあつたにもかかわらず、天皇の権力が強い憲法をつくったのはなぜか考えさせることで、国力を一刻も早く上げ、欧米諸国に認められなければならないという危機感があつたことに気付かせたい。

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

○ 児童の思考が深まる資料の工夫

前述の児童の実態からも分かるように、本学級の児童は、「歴史の学習」＝「覚える学習」というイメージを持っている児童が多い。そのため、大日本帝国憲法が皇帝の権力が強いドイツの憲法をモデルとした欽定憲法であると学習するだけでは、知識の習得だけで深い学びにつながるとは考えられない。大日本帝国憲法が国会開設へ向けた自由民権運動の流れの中で、政府によってどのようにつくられたのか、憲法の内容だけではなく、思いや願いに迫る授業を展開していくことが大切であると考えられる。

そこで、本時の展開では、私擬憲法である桜井静の「大日本国会法草案」と大日本帝国憲法の比較を通して、大日本帝国憲法は「大日本国会法草案」と違い、天皇を中心に条文が書かれていたり、軍隊について書かれた条文が盛り込まれていたりするということを読み取り、そこには政府のどのような思いがあつたのか書き表し、それを友達と共有することによって「天皇による統制のとれた強い国づくりをして、欧米諸国に認められたい。」といった政府側の思いに迫れるようにしていく。当時、様々な立場で私擬憲法が出されており、教科書では、私擬憲法の代表として千葉卓三郎による五日市憲法が取り上げられている。しかしながら、基本的人権に多く触れているものの、読み解

くと天皇の権力が強く、大日本帝国憲法と比較しても違いが読み取りにくいいため、本時では千葉県
の民権家である桜井静の「大日本国会法草案」を取り扱い、思考を深める手立てとしたい。「大日
本国会法草案」は、数ある私擬憲法の中でも早い段階で出され、全国の民権家が触発されたもので
ある。そして、題からもわかるように自由民権運動の流れを汲んだ国会開設に焦点が当てられた私
擬憲法であることから、民権家と政府という立場の違いが明確にわかりやすいと考える。

このような活動を通して知識の習得だけではなく、時代を動かすのはその時代に生きている人々
の思いや願いであることを社会科の学習の視点として大切にし、思考を深める児童を育てたい。

8 本時の指導（7／8）

（1） 本時の目標

- 大日本帝国憲法の特徴について、資料を活用して調べ、それぞれの条文の内容を読み取ったり、
まとめたりしている。 （観察・資料活用の技能）
- 大日本国会法草案と大日本帝国憲法を比べ、大日本帝国憲法が天皇の権力が強い理由について、
考え、表現している。 （社会的な思考・判断・表現）

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
前時 後半	<p>1 これまでの学習を生かし、自分が 明治の時代に生きているのであれば 憲法にどのような条文を盛り込むか 考える。 (民権家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民は、演説などを通して自分た ちの思いを主張してよい。 ・政治は、国民が参加して行う。 ・物事は争いではなく言論で解決す る。 ・国民は差別されることがなく、み んな平等であること。 <p>(政府)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇を中心に政治を進める。 ・国民は軍隊を強くするために協力 すること。 <p>2 学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 政府はどのような憲法をつくったのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内外において日本が置かれてい た状況を想起するように助言する。 ○ 条文だけ書いている児童には「な ぜこの条文を入れましたか。」と問う ことで、そこには考えた人の思いや 願いがあることに気付かせる。 ○ 「この条文は民権家の立場ですか。 政府の立場ですか。」と問うことで、 立場を整理しながら学習を進め、政 府はどのような憲法をつくったのか 問題意識を持たせる。 ○ 大日本帝国憲法発布（1889年）、 国会開設（1890年）を確認すること で、憲法が国会で議論されて制定さ れたものではないことに気付かせ る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの 学習を振り 返る掲示物
本時 3	<p>3 学習問題を立てる際に考えた憲法 の条文を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立場を整理しながら振り返り、政 府はどのような憲法をつくらうとし ていたのか予想をもとに学習を進め られるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が考 えた憲法 条文
20	<p>4 民権家桜井静の「大日本国会法草 案」と政府の大日本帝国憲法を比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートには、大日本国会法 草案がどのような内容であったかと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 憲法比較の

	<p>して調べ、政府の憲法がどのような憲法だったか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一条に天皇について書いてあるから天皇のことを第一に考えていると思う。 ・天皇を神様のように扱っている。それだけ天皇は偉いのかな。 ・法律の決め方は、天皇が主役なのかな。 ・軍隊について書いてある。国を強くしようとしているのだ。富国強兵の考えだ。 ・天皇への意見は述べるだけで、却下はできないから、国会の権限はあまりないのかな。 <p>⇒大日本帝国憲法は天皇の権力が強い憲法だった。</p>	<p>いう視点で書くのではなく、大日本帝国憲法が大日本国会法草案と比較してどのようなものだったかを書くように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の内容を全体で確認することで、共通認識を持って資料の読み取りができるように支援する。 ○ 起草者の民権家・政府という立場を確認することで、考え方の違いに気付けるように支援する。 ○ 比較が困難な児童には、全体を見るのではなく、対応している項目ごとに比べるように助言し、①天皇主権②富国強兵の下、強い国づくりを進めていることを読み取れるように支援する。 <p>◆ 大日本帝国憲法の特徴について、資料を活用して調べ、それぞれの条文の内容を読み取ったり、まとめたりすることができる。(技)</p>	<p>拡大資料</p>
15	<p>5 自由民権運動があったにもかかわらず、なぜ天皇の権力が強い憲法になったのか改めて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の課題は、強い国をつくって外国に認めてもらうことだから。 ・国民に権限を与えていては強い国がつかれない。 ・認めてもらうためには強い国ということ憲法でアピールしないとイケない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の内容から政府が強い国づくりを目指していたことを想起させる。 ○ 「軍隊が強くなると国は強くなったと言えますか。」と問うことで、強い国づくりを狭義の軍事力の向上として捉えるのではなく、広義の国力の向上として捉えられるようにする。 <p>◆ 大日本国会法草案と大日本帝国憲法を比べ、大日本帝国憲法が天皇の権力が強い理由について、考え、表現することができる。(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的背景をふりかえることで、まとめにつなげられるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○薩英戦争、下関戦争揭示物 ○大久保利通の政策の揭示物
7	<p>6 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動があったから、もっと国民中心の憲法になるかと思った。 ・国の課題を優先して、天皇の権力が強い憲法だった。 		
<p>政府は、自由民権運動の流れがあったが、強い国づくりのために天皇の権力が強い大日本帝国憲法をつくった。</p>			

